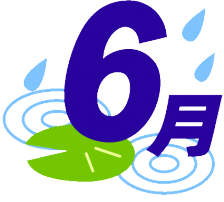




ひらどだい

令和2年度 学校だより 6月号 横浜市立平戸台小学校学校長 藤巻 孝之



再開（再会）です

校長 藤巻 孝之

まだまだ油断はできません。何より守るべきは子どもたちの健康、安全です。学校では3つの密の回避、消毒、学習指導のスケジュールや形態の工夫、心のケアやいじめにつながりかねない言動の早期発見、早期対応など、様々なリスクに対して具体的な策を講じ、実践していきます。

私自身が気を引き締めるにあたり、あえて冒頭から厳しい言葉でスタートしましたが、ようやく学校再開の日を迎えました。子どもたちが学校に戻ってきました。こんなにうれしいことはありません。学校に命が吹き込まれました。「元気が一番」は私が常々口にする言葉です。結局のところ、子どもたちが地域・社会のひかり、希望、元気の源でしょう。素直に学校の「再開」と子どもたちとの「再会」を喜びたいと思いません。

学校再開にあたり、テレビ放送で子どもたちに次の内容呼びかけました。

「おかえりなさい。」

「長い外出自粛の生活によく耐えました。」

「新しい生活の仕方を身に付けながら学校生活をスタートさせましょう。」

「みんなで楽しさや喜びを見つけたり、作り出したりしましょう。」

「何よりも自分や友達の体や心を大切にしましょう。」

少しずつ生活のリズムを取り戻しながら、日々の学校生活を充実させてほしいと思います。学校ホームページの「校長室より」にも掲載しましたが、今は「人と人とのかわり」がこれまで以上に重視されるべきだと思います。専門家が言う「心理的トラウマの発生が懸念される」という状況下において「人と人とのかわり」こそが、一人ひとりの心の解放や安定を生むのではないのでしょうか。学校がその役割の一端を担うべきと、改めて感じています。

また、学習の遅れを取り戻す工夫をしなければなりません。近々横浜市としての方針も示されますが、平戸台小として何ができるか、何をすべきかの検討を重ねてきました。そのキーワードは「教科書を教えるのではなく、教科書で教える」です。学校は国が示す学習指導要領に従って各教科等の指導の内容や順番を組み立てています。この組立をカリキュラムと呼びますが、教科書はそのカリキュラムをたすけるツールです。つまり学習指導の目的は、教科書を順番にもれなく指導することではなく、（教科書等を使って）学習指導要領の内容をもれなく指導することです。指導する時期を変更したり、内容に軽重をつけたりするなど、カリキュラムを工夫しながら子どもたちの学びに不利益が生じないように日々の授業を展開していきたいと思えます。

長期にわたり、予定変更への対応、子どもたちの課題への取組や健康観察など、多方面にわたりご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。お願いばかりで恐縮ですが、5/25（月）に配布した「6月1日以降の段階的な学校再開について」を改めてご確認ください。引き続き、皆さまと手を携えて、子どもたちの健やかな成長を支えていきたいと思えます。どうぞよろしく願いいたします。